

## 令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	生駒市	代表者名	市長 小紫雅史
担当者部署	市長公室	連絡先電話番号	0743-74-1111
担当者役職	主幹	担当者氏名	村田充弘
		連絡先E-mail	*****
住所	630-0288 奈良県生駒市東新町8-38		

#### 1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

### 2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	河井 孝仁
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	河井氏が提唱するシティプロモーションの成果指標「修正地域参画総量指標（mGAP）」等の知見を活かした助言をいただいた。ワークショップの企画・進行に関する助言に留まらず、ワークショップ参加者の発言やグループでの対話を傾聴し、参加者のシティプロモーション事業を通じたポジティブな変化や、施策のこれまでの成果、今後の課題等を整理していただいた。
アドバイザーへの要望事項	特になし

### 3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	期日・支援内容の変更あり		
	令和5年8月22日	支援・助言(実地)	無		
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
			12時30分	17時15分	
				活動時間（分）	285
3-2. 派遣場所	会場名	生駒市役所	最寄駅	近鉄生駒駅	
	所在地	奈良県生駒市東新町8-38	最寄駅からの交通手段	徒歩	

### 4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可	<a href="https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/">https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/</a>
------	---------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	市職員、企業、市民	25人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	本市では、昨年度グッドデザイン賞を受賞した市民PRチーム「いこまち宣伝部」やプロモーションサイト「good cycle ikoma」等を通じて、まちの魅力を編集・発信し人と人のつながりや交流を生むサポートを行い、まちのファンを増やししながら新しい都市イメージをつくる取組を実施している。これらの事業は、「コミュニティの形成」や「シビックプライドの醸成」といった社会的な価値を生み出している一方で、数値化・定量化しづらく、成果の可視化が難しいという課題がある。	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	シティプロモーション施策の生みだした社会的価値について、デジタルツールを用いて可視化（数値化・定量化）し、わかりやすいレポートが作成されること。	

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	シティプロモーション施策の生み出した社会的価値を数値化・定量化するために、過去にシティプロモーションに関する事業に参加した市民19名に、シティプロモーション事業に関係して発生したと考えられるポジティブな変化や意見を聞くワークショップを開催した。河井氏はワークショップ全体を俯瞰する立場で参加し、参加者の発言やグループ内での対話を整理・言語化したうえで、シティプロモーション施策に起因するポジティブな変化や、施策のこれまでの成果、今後の課題等を整理した。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	ワークショップ開始前に、ワークショップの進行方法についてより意見が引き出せるような方法を教示してもらい、プログラムを変更した。また、ワークショップ参加者に対しては「つるくさ理論」を提示し、市民がシティプロモーション事業に関わることで自らの可能性を広げていることを説明されたうえで、ロジックモデル作りにおいてはシティプロモーションの考え方や共感者が増える意味を事業者と行政に示し、何を指標としていくかについての方向性を導いていただいた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	1回目のワークショップをどのように今後を活用するか確認し合った。今回は「個」の変化であったため、これを「パブリック」の変化へと昇華し、2回目以降のロジックモデル作りに活用する。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 別添のとおり実施	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
事業の最終的な目指す姿	シティプロモーション施策が生んだ成果とロジックモデルを可視化することで、効果的な打ち手を立案できるようになること。	

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

#### 6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真 (JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

